

令和7年度使用

中学校において使用する  
教科用図書のおすすめ理由書

隠岐採択地区教科用図書採択協議会専門研究員

## 選定理由書（国語科）

（選定：東京書籍）

下記の理由により選定した。

本教科書は、身につける「言葉の力」を、1学年の中で、そして3年間にわたって、系統的に配置している。学習が発展しながら積み上がることで、学びの深まりを実感できる工夫がされている。

また、これまでに身につけた言葉の力を生かして考えを深める教材として、各学年末に「未来への扉」という単元が新設された。この単元は、文章と資料を関連させて理解し、考えを深め、他者と伝え合うことを通して、現代社会の課題と向き合うことができるような内容となっている。

さらに、教材ごとにQRコードが配置されており、一斉授業はもちろん、個別学習や家庭学習でも活用できるようになっている。これにより、生徒の主体的に学びに向かう力を引き出し、個別最適な学びを支えることが可能となっている。参考資料などもデジタル化し、QRコード経由にすることで、従来より3学年分で100ページ以上が削減され、持ち運びの負担軽減が図られている。

以上のように、「言葉の力」が3年間を通して自然に深まり、確実に定着する仕組みが随所に見られる教科書となっている。

# 選定理由書（書写）

（選定：光村図書）

下記の理由により選定した。

本教科書は、全教材に「目標」および「振り返ろう」（自己評価の観点）を設定し、知識・技能の定着や自己の変容を確かめられる構成となっている。また、各教材の学習は、「考えよう」「確かめよう」「生かそう」という流れになっており、簡潔でわかりやすい。さらに、1教材1事項で構成され、学習のねらいを焦点化することで効率的に力をつけられるよう配慮されている。

1人1台端末の現状に合わせて、その活用の仕方やプレゼンテーションのスライドなど、ICT機器を使う際のポイントについて具体例を掲載し、タブレット端末を活用した学びに配慮されている。

取り外して使える「書写ブック」は、硬筆で書き込むことにより、毛筆の学びを硬筆に活かすことができるように工夫されている。

以上のように、書写の学習を通して幅広い知識・教養を身につけるとともに、書写で培った「文字を正しく整えて速く書く力」を国語や他教科、日常の言語生活で生かす態度を育成できるよう配慮された教科書である。

# 選定理由書（社会科 地理的分野）

（選定：帝国書院）

下記の理由により選定した。

帝国書院の教科書は、選定に必要な資料の全ての観点において問題がみられなかった。本書にみられる特色のうち、特に次の3つを取り上げる。

①章・節を単元のまとまりとし、学習の見通し・振り返りがしやすい構成となっている。

「節・章」ごとの単元を貫く「問い」を受けける形で、各見開きの「学習課題」が設置され、各見開きで見通し、振り返る学習を積み重ねることで、単元を貫く「問い」の追及につながるように「問い」が構造化されている。また、まとめとして単元末に「学習を振り返ろう」が設置され、白地図を用いた知識・技能の確認や思考ツールを用いた学習事項の整理、対話を通して単元を貫く「問い」に対する自らの考えをまとめられるようになっている。

②単元の導入において写真やイラスト地図により地域の姿が見えるよう配慮されている。

「世界の諸地域」や「日本の諸地域」の単元の導入部分には、大きく鮮やかな写真や親しみやすいイラスト地図が掲載されており、地域の様子をつかみ、その特色を端的に捉えられるようになっており、興味・関心を高めて、地理的な見方・考え方を働かせながら、意欲的に学びに向かえるように工夫されている。

③「個別最適な学び」を支援するコンテンツが充実している。

一人一台端末で活用できる QR コンテンツが多数用意されており、教科書の各所に掲載されている QR コードからアクセスできるようになっており、「個別最適な学び」が支援されている。

# 選定理由書（社会科 歴史的分野）

（選定：帝国書院）

下記の理由により選定した。

帝国書院の教科書は、選定に必要な資料の観点全てにおいて問題がみられなかった。本書にみられる特色のうち、特に次の4つを取り上げる。

①見通しや振り返りがしやすいよう構成が工夫されている。

章のはじめには「章の問い」を設けており、単元を貫く問いを明示することで見通しを持って学習に取り組める。また、各節の「問い」の積み重ねが章の「問い」の追究につながり、小単元の学習課題の積み重ねが節の「問い」の追究につながっているため、深い学びとなり、振り返りもしやすい。

②時代の特色をつかみやすいよう工夫されている。

主要な12の時代について、政治・経済・文化を描いたイラスト「タイムトラベル」(想像図)によって、時代の特色をイメージしやすい。イラストは細かな時代背景まで描かれており、生徒の興味・関心を引き出すことが期待できる。

③多面的・多角的に日本の歴史を捉えられるよう工夫されている。

一つの歴史事象について、様々な立場の人々の見方を示す資料が掲載されている。また、特設ページ「歴史を探ろう」では、地域の歴史を取り上げており、中央の歴史だけでなく地域史を重視している。さらに、「アクティブ歴史」という特集ページが組まれており、当時の社会に見られた事象をどう捉えるか、様々な視点を持って考えることができる。

④日本と世界の歴史の関わりが分かりやすいよう工夫されている。

「世界とのつながりを考えよう」によって、日本の歴史を世界の動きの中に位置づけて見ることができる。

## 選定理由書（社会科 公民的分野）

（選定：帝国書院）

下記の理由により選定した。

帝国書院の教科書は、選定に必要な資料の観点全てにおいて問題がみられなかった。本書にみられる特色のうち、次の3つを取り上げる。

①「主体的・対話的で深い学び」につながる単元構成をしている。

章・節を単元のまとまりとし、学習の見通し・振り返りがしやすい構成になっている。単元構成としては、以下の通りである。

- ・イラストから社会の様々な場面を概観することで生徒の興味・関心を高める。
- ・「単元を貫く問い」が明示されており生徒が見通しをもって学習に取り組める。
- ・小単元ごとに学習課題が設定されており、生徒が「単元を貫く問い」を考える手立てとなっている。
- ・章末に「学習を振り返ろう」を設置しており、思考ツールを活用しながら対話を通して「主体的・対話的で深い学び」の実現をサポートしている。

②「個別最適な学び」を支援するコンテンツが充実している。

QR コンテンツが728用意されており、随所に記載しているためアクセスしやすい。コンテンツには、図解アニメーションや用語解説、統計資料だけでなく、学習前に見通しを立てたり、学習を振り返ったりするメニューも用意されている。デジタルコンテンツが充実しているため、生徒が自ら「個別最適な学び」を選択できる。

③「自分ごと」として主体的に社会に参画する意識を引き出す記載がある。

実社会に関連した課題が「アクティブ公民」や「公民プラス」、「未来に向けて」で記載されており、多面的・多角的な思考活動や、話し合いによる合意形成等を伴う活動を取り入れやすくなっている。また、本文記述には、社会のしくみの解説だけでなく、生徒が社会とどのように関わっていくのかを生徒自身が考えていくことの大切さを語りかけている。抽象的な概念や理解が難しい制度・事象については、「～とは」という見出しを用いて、分かりやすくかみ砕いた表現で解説しているため、語句理解の困難さで生徒が思考を停止しないように工夫されている。

## 選定理由書（地図）

（選定：帝国書院）

下記の理由により選定した。

帝国書院の地図は、選定に必要な資料の全ての観点において問題がみられなかった。本書にみられる特色のうち、特に次の3つを取り上げる。

①世界と日本の地域的特色が捉えられる地図となっている。

大判の紙面を生かし、世界への関心を引き出す大迫力の鳥観図が設置され、各州の地域的特色を大観し、概略をつかむことができる。また、世界や日本の各地域において地図だけでなく、主題図やグラフ等の資料が豊富で、多くの資料から課題を追究できるよう工夫されている。

②主体的に学び、資料活用能力が高まるような工夫がされている。

主体的に学習に取り組めるように地図帳の使い方を段階を追って丁寧に解説し、地理的技能の基本が身に付けられるよう工夫がなされている。また、地図活用の技能を定着させるために、それぞれの項目に対応するQRコンテンツが用意されている。また、資料図の多くが同縮尺で示されており、複数の図を比較・関連させて考察しやすいようになっている。

③「個別最適な学び」を支援するコンテンツが充実している。

学習内容の習得や、生徒の調べ学習を支援する一人一台端末で活用できるQRコンテンツが数多く用意されている。地図帳に掲載されているQRコードからアクセスできるようになっており、「個別最適な学び」が支援されている。

# 選定理由書（数学科）

（選定：東京書籍）

下記の理由により選定した。

学習課題が明確に示されており、これから学ぶことについて、見通しをもって学習をすすめることができるようになっている。その他、巻頭に本の構成と使い方が示されているので、授業を展開していくのにとっても使いやすい。

また、問題数が非常に多く、演習に適しており、難易度は基礎的な内容を中心にバランスよく盛り込まれている。章末の問題は A、B の 2 段階で構成されていて習熟度別学習に対応している。また巻末の補充問題には難易度の異なる問題が設けられ、一人一人の学習状況に応じて取り組めるよう配慮されている。

さらに、ほぼ全ページの下に記された QR コードを読み取ると、シミュレーションやフラッシュカード、章末問題のヒントや模範解答を見ることができるなどデジタルコンテンツが豊富であるので、各学校の状況に合わせて柔軟に利用することが可能である。

## 選定理由書（理科）

（選定：大日本図書）

下記の理由により選定した。

・文章は、簡潔に表現され、また資料や表のデータ、写真等は学習内容に適したものが精選して掲載されている。家庭学習の際、生徒が内容を読んだり、理解したりしやすいよう配慮されている。

・各単元の冒頭部に「これまで学習してきたこと」と「これから学習すること」が見開きで示されていることで学習のつながりが分かるよう配慮されている。また小学校だけでなく高校の内容との関連や他教科との関連が明記されていることで、学習内容の縦・横のつながりを生徒が理解しやすい。

・観察・実験の結果の例は、ページをめくってから見られるように配置してある。

・写真やイラストが多く配置されており、視覚的にも生徒の興味関心を喚起しやすく、理解を促しやすい。また、学習内容に関連する発展的な資料が幅広く掲載されているため、あらゆる学力の生徒が興味をもって学習でき、資料集のようにも活用できる。

・生徒の発達段階を鑑み、中1の教科書では文字が大きく、小学校の教科書とギャップを感じないような工夫が行われている。また、発達段階に応じて発展的な内容の量が調節されており、つまづきを少なく学習できるよう配慮されている。

・単元を貫く課題が設定されており、生徒が科学的に探究しやすい工夫がされている。

## 選定理由書（音楽科 一般）

（選定：教育芸術社）

下記の理由により選定した。

- ・楽曲ごとに着目する音楽の要素が書かれているため、何を学習するのかがわかりやすくなっている。
- ・地域の実態から、全校や学年で合唱づくりに力を入れて取り組む学校がほとんどである。そのため、歌唱曲における表現の工夫（どのように歌いたいか）を考えやすい学習内容が1年、2・3年上において取り扱っていることは、合唱づくりの充実に繋げることができる。
- ・「学びのコンパス」では、学びの流れを示されており、個→他者→個の流れが、主体的・対話的で深い学びを意識した構成になっている。そのため、他者の考えを聞きながら、自分の考えを整理して学習できる工夫がされている。
- ・QRコードがほぼ全ての楽曲に掲載されており、伴奏やワークシートを読み取ることができる。そのため、伴奏の音源については、パート練習での活用がしやすい。ワークシートもペーパーレスになり、直接打ち込むことで書くことが苦手な生徒にとっても、学習支援として役立つ。

## 選定理由書（音楽科 器楽）

（選定：教育芸術社）

下記の理由により選定した。

- ・楽曲ごとに着目する音楽の要素が書かれているため、何を学習するのかがわかりやすくなっている。
- ・巻頭に大きくドラムセットを演奏している写真が掲載されており、ドラマーのコメントによっても、生徒の興味・関心が高められる。また、「バンドの世界をのぞいてみよう」では、有名な曲のバンドスコアが掲載されているなど、随所に生徒の興味・関心を引く写真や楽曲が掲載されている。
- ・様々な楽器の基礎的な奏法が楽譜や写真等で丁寧に記されていたり、QRコードで範奏が動画で見られるようになっている。また、基礎的な奏法を身につけることだけに留まらず、合奏につなげることができる工夫がされている。
- ・扱われている楽曲が多岐にわたり、生徒の興味・関心を高める工夫がされている。

# 選定理由書（美術科）

（選定：開隆堂）

下記の理由により選定した。

学習指導要領の目標（「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」）に沿い、各題材に学習の目標が具体的に示されており、美術科のねらいを達成しやすくなっている。また、授業の展開を意識して、一つの題材を基本4ページで構成しているため、作品例や制作過程が豊富であり、生徒が学習に取り組みやすい工夫がある。さらに、小見出しで「知識・技能」「発想・構想」「鑑賞」と示すことで、この題材でどのような力をつけるのか指導者も、生徒も確認しやすくなっている。

掲載されている作品等の写真には実物大のものが多く、生徒の興味・関心を高めながら表現や鑑賞の学習を進めることができる。また、漫画、イラスト、アニメなども豊富に取り上げてあり、興味を持った学習が展開されると思われる。

デジタルコンテンツ内容が充実しており、二次元コードの表示の横に、デジタルコンテンツの内容が示されていたり、二次元コードを読み取るとワークシートが表示されたりする。動画や技法などもあるため、使いやすいデジタルコンテンツが備えてある。

## 選定理由書（保健体育科）

（選定：学研教育みらい）

下記の理由により選定した。

今回本教科書を選定した最大の理由とし QR コードがありこの QR コードを開くと動画（新体力テストの仕方等）が流れたりワークシートの例があったり生徒が興味・関心を持って授業に取り組めるように工夫されている。また、関係諸機関（各省庁）にもつながり最新のデータがあるため言語活動・表現活動（エクササイズ・学びを生かす）で活用ができるため、探究的な学習がスムーズに展開されることが期待できる。

各時間の冒頭に「ウォームアップ」や「学習の課題」として【わかる】と【考える】と分かれており、1時間の学習の流れを見通すことができるよう工夫されている。また、「エクササイズ」「学びを生かす」など実生活に活かすためにどうすればよいか考えを深めるよう工夫されている。特に「自然災害から身を守る」の単元では、現在使用している教科書では、「地震」「津波」「火山噴火」を例として避難行動や日頃の備えについて説明しているが今回の教科書では、「台風」「大雨」についても説明されており、現在の気象状況を考慮しながら教科書が作成されている。また、「中学生生活と食事」「たばこ・酒・薬物に手を出さないため」においても現代の社会情勢を考慮して内容が構成されているため自分ごととして考えを深めることができる教科書である。

全体的に文字数が少なく、挿絵や資料が多く読みやすく見やすい構成になっている。特に実習の授業では、絵を使って細かく説明されているのはとても分かりやすい教科書である。

## 選定理由書（技術・家庭科 技術分野）

（選定：教育図書）

下記の理由により選定した。

教育図書はA～Dのどの内容においても学習内容が精選されており、指導経験の少ない教員や初めて技術を学習する生徒にとって指導及び学習がしやすい。特に教科書本体の巻末にA～D設計画表が付いており、各内容の見方や考え方、必要なスキル等がまとめられ全体を見通して学習に取り組めるようになっている。

また、別冊で付属している「スキルアシスト」はA～Dそれぞれの技能的なポイントがまとめられており、作業を行っていくうえで必要な情報が簡単に探せるので実用的である。

それぞれの内容の題材例は身近なものが多く、それほど難易度が高くないため設備や用具が限られている学校でも対応できるものになっている。

QRコードによる動画やデジタル資料も内容ごとにまとめられて充実しており、生徒にとってICT端末を活用しながら学習を進めていくのに丁度よいものになっている。

隠岐の現状である専門の教員や指導歴の長い教員が非常に少ない（免許外による指導が多い）こと、設備や用具が限られていることなどを考えると、誰にとっても指導がしやすく（わかりやすく）、生徒自身も主体的に学べる教育図書を選定した。

## 選定理由書（技術・家庭科 家庭分野）

（選定：教育図書）

下記の理由により選定した。

家庭科の学習では、授業時数に対して指導する内容が多いため、取り扱いに軽重をつけなければならない。このことは指導経験が少ない教員や免許外指導者にとってはなかなか難しいことであり、教科書については、単に情報が多ければ（こと細かく記載されてあれば）よいというわけではない。

教育図書はA～Cのどの内容においても、学習内容が精選されており、指導経験の少ない教員や学習する生徒にとって指導及び学習がしやすい。特に、各章のはじめの「自立度チェック」、小題材ごとの自己評価、章末の「学習のふりかえり」は、学習を円滑に進めたり、理解度を確認したり、評価したりするのに有効であると考えられる。また、文字の大きさや余白、紙面のレイアウトやデザインも親しみやすいものになっている。

家庭分野の目標として、生活の中から問題を見出して課題を設定することや、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うことが大切とされているが、教育図書は各章末に「学びを生かそう」を配置し、これまで学習したことを生活に生かすための課題設定や実践がしやすいように工夫している。取り上げている例は生徒にとって身近なものが多く、難易度もそれほど高くないため実践しやすい。

隠岐の現状である専門教員や指導歴の長い教員が非常に少ない（免許外による指導も多い）ことや、生徒の学習スキルなどを考えると、誰にとっても指導がしやすく（わかりやすく）、生徒自身も主体的に学べる教育図書を選定した。

## 選定理由書（英語科）

（選定：東京書籍）

下記の理由により選定した。

急速なグローバル社会の進展により、「英語を使う力」や異文化理解、異文化コミュニケーションの重要性がますます高まっている。本教科書は、英語力の基礎を身につけ、今日的な課題に自分事として向き合い、行動できる生徒を育成するとともに相手を意識した発信活動を行いコミュニケーション能力を伸ばすことができる教科書である。

全学年を通して、知識・技能の習得と活用を繰り返しながら思考力・判断力・表現力などを育成することが可能である。

また、題材が人権、日本の伝統文化、自然、平和、国際理解・国際貢献等、多岐にわたり、多様な読み物に触れることにより、他教科、道徳教育との関連も図られている。

さらに「単元を貫く問い」がUnitのタイトルに設定されているため、見通しを持ち学習が進められ、目的意識をもって言語活動に取り組み、読解力や表現力も高められる構成である。紙面に付した二次元コードにより、英語でのやり取りをシミュレーションすることが可能であり、帯活動等に活用することで「話すこと」の力を育成することができる。練習用動画が豊富で生徒自身が自ら家庭で活用できるとともに、他にも自律的な学習者を育てるコンテンツが充実している。

## 選定理由書（特別の教科道徳）

（選定：東京書籍）

下記の理由により選定した。

本書は、各学年とも「1年間で学ぶこと」「道徳科とは」というガイダンスを設けることで授業の基本的な流れを学習してから本編に入れるようになっている。また、本編35教材、付録4教材の構成となっているため、各校の重点目標を考慮して年間計画を設定することが可能であるとともに、生徒の実態に応じて扱う教材を柔軟に活用できる。

デジタルコンテンツが充実しており、映像や心情円などの活用により学びを広げることができるように工夫されている。また、NHKforSchoolを取り入れるなど、ICTの活用により生徒が議論する時間やグループワーク等の小集団での学習時間を多く取ることができるため、深い学びにつながると考えられる。教材によっては写真やイラストなどが効果的に掲載されており、生徒の興味・関心を高めるとともに、場面展開等の理解がしやすいように配慮されている。

全学年で「いじめ防止」「生命尊重」について考えるユニット構成がなされており、現代的課題について重点的に学習できるようになっている。また、本編教材やコラムに「SDGs」に関する題材が設けてあり、特に各学年系統的に必ず学習できるよう配慮されている。

各教材末に「ぐっと深める」や「つぶやき」の欄が設定されており、1時間ごとに学習を振り返って、学びを深めたり、自分の意見や考えを記入できるようになっている。また、巻末には学期ごとの振り返りのシートがついており、年間を通じて効果的に学習できるとともに、生徒の考えを記録に残すことができるようになっている。